

平成9年度厚生省心身障害研究

「生涯を通じた女性の健康づくりに関する研究」

「家族計画と女性の健康に関する研究～未婚期を中心に」

(分担研究：女性のリプロダクティブヘルスに関する研究)

分担研究報告書

分担研究者 北村 邦夫¹⁾

研究協力者 廣井 正彦²⁾

齊藤 英和²⁾

要約

結婚届けを提出した夫婦に、アンケートを渡し、その回収された100枚分につき分析した。多くは家族計画には関心を持ち、男1人、女1人の児を希望する者が最も多かった。避妊法としての経口避妊薬（ピル）については情報量が少なく、より多くの情報を求めている。

見出し語：家族計画、避妊、経口避妊薬

研究方法

WHOが提唱したリプロダクティブヘルスの現状の中で、ようやくわが国でも安全で確実な避妊法として経口避妊薬（ピル）が市販されようとしている。一方、わが国の合計特殊出生率は年々低下し、この事実はわが国の将来に暗い影を投げかけてきている。そこでこのような時期に結婚したばかりの近い将来妊娠を計画する時期の若い夫婦に対し、将来の妊娠の計画を調査すると共にリプロダクティブヘルスについての考え方を明らかにする目的で、平成9年10月より山形山形市役所市民課に結婚届に訪れる者に、返信用封筒に入れたアンケート用紙（別紙）を渡し、直接われわれに送付してもらうことを依頼した。

研究結果

この間に500人分のアンケート用紙を配布し、回収した用紙は100人分、回収率20%であった。これは趣旨がよく理解されていないことにもよると思われる。

1) (社)日本家族計画協会クリニック

2) 山形大学医学部産婦人科

夫婦の年齢分布をみると、妻の年齢は18歳から40歳に及び最も多いのが24歳から27歳であった。夫の年齢も19歳から48歳にわたり最も多いものが24歳から34歳、やや妻の年齢より高い傾向を示した(図1)。

妻の職業についてみると常勤している者は57%と最も多く、パートで勤務している者は7%で、勤めていない者が36%を占めていた(図2)。

結婚の形態をみると84%が恋愛で、見合いは13%にすぎなかった(図3)。

将来の出産計画について、2人が最も多く、次いで3人、1人、4人の順であった。男1人、女1人を望む者が最も多く、次いで女2人、男2人の順であった。

子供の出産の時期については、すぐ欲しいから1年後位に欲しい者が最も多く全体の80%を占めた(表2)。

低用量ピルの発売について、興味がない者が半数を占め、もっと情報を知りたい者も多かった。多くは産婦人科医師からの処方希望していた。また、ピルを使用したくない者の多くは癌などの副作用が心配だとする者が多かった(表3)。

エイズなどの性感染症について本などで大体知っている者が多い反面、もっと知りたい者が55%を占めた。また、ピルが解禁されたらエイズが増えると思う者が52%を占めたが、わからないという者も42%を示した(表4)。

リプロダクティブヘルス全般についての意見を寄せた者は表2のごとく、18人おり、種々の意見が寄せられた。とくに、出産や避妊など医師との対話の出来る環境を要求するもの、避妊やAIDSなどに男性側の協力を求めるもの、出産や育児に対する職場などの社会環境の無理解を指摘する声があった(表5)。

考察

わが国の特殊合計出生率は1970年以来減少しはじめ、1994年には1.50まで低下し、さらに低下の傾向を示している。この少子化と共に寿命の延長は高齢化社会を促し、わが国の将来にも暗い影を投げかけているといえる。¹⁾

毎日新聞社の人口問題調査会の報告によると、結婚しても子供の数を多く欲しない傾向があり、そのための家族計画もコンドームを主体としたもので、未だピルを認可していないわが国では当然であるものの、ピル使用者は1.3%でピル解禁後も使用希望者は13.1%台にとどまっている。²⁾

この時期に妊娠を計画しようと思っている結婚届出をした夫婦について将来の妊娠計画や避妊法などを調査することは極めて意義深い。ここでは一地方都市での100組の夫婦での調査であるが児の希望は2人が最も多く、出産時期もすぐ欲しい者や1年後に欲しい者が多く、当然ながら結婚と妊娠・出産は夫婦共に望むところであった。

ピルやAIDSについて不正確の知識が多く産婦人科医師などに情報の提供を求める声が強かった。今後はこれらの対応について更に検討する必要がある。

文 献

- 1)厚生省児童家庭局母子保健課：母子保健の主なる統計，1996
- 2)毎日新聞社人口問題調査会，1996

図1 回答者の夫と妻の年齢分布

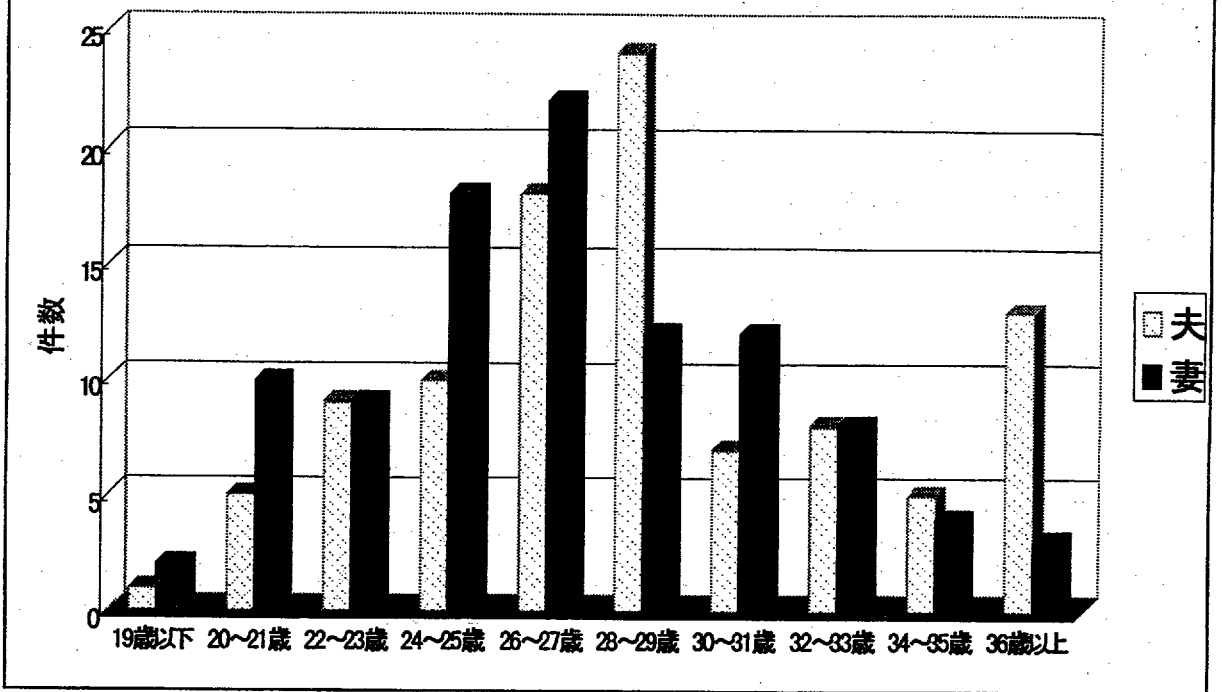


図2 妻が勤めている者の割合

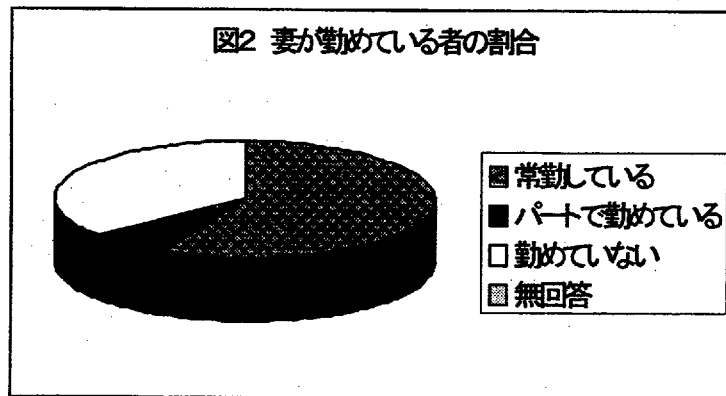


図3 結婚までの形態

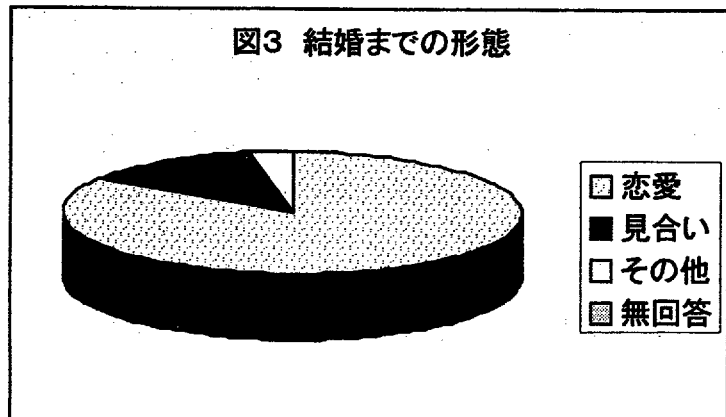


表1 アンケート用紙

アンケートのお願い

御結婚おめでとうございます。このアンケートは厚生省の「生涯を通じた女性の健康づくりに関する研究」の中の「女性のライフサイクルヘルス（生殖の面から見た健康）に関する研究」の一環として、主として結婚もしていない無記名で、産後とくに女性の健康を中心としたもので、今後の政策の上でも重要な意義をもつものである。御多忙中恐縮ですが、御記入が終わりましたら同封の封筒に入れて早めに御返函下さい。

山形大学医学部産科婦人科学講座
教授 廣井正彦

該当する項目に数字や○印など御記入下さい。

1. 現在の年齢 妻()歳 ・ 夫()歳
2. 奥様はお勤めしていますか。 常勤している ・ パートで勤めている ・ していない
3. 結婚まではどのような形態でしたか。 恋愛 ・ 見合い ・ その他()
4. 将来のお子様の出産計画について
 - (1) 何人位生みたいと考えていますか。 出産予定はない ・ 1人 ・ 2人 ・ 3人 ・ 4人 ・ 5人以上
 - (2) 男の子と女の子の比率はどうですか。 男()人 ・ 女()人
 - (3) 初めての子供を生む時期をいつごろと考えていますか。
 - a すぐに欲しい
 - b 1年ぐらい後に欲しい
 - c 2～3年後に欲しい
 - d 4年以上後に欲しい
5. 避妊法について
 - (1) 経口避妊薬（低用量ピル）がわが国でも発売されると考えられますが、どう思いますか。
 - a 興味ない
 - b もっと情報を知りたい
 - c 使ってみたい
 - d その他()
 - (2) 経口避妊薬（低用量ピル）は医師なら誰でも処方出来るといわれていますが、その時はどの科の医師からもらいたいと思いますか。
 - a 産婦人科医
 - b 内科医
 - c 小児科医
 - d その他()
 - (3) 経口避妊薬（低用量ピル）を使いたくない方におききます。何故でしょうか。
 - a 情報が不足
 - b がんが心配
 - c その他の副作用（肥満・肝臓や腎臓への障害など）が心配
 - d その他()
6. 性感染症について
 - (1) エイズなどの性感染症（主に性行為により感染する病気）が問題となっていますが、どうお考えですか。
 - a エイズなどの性感染症についてもっと知りたい。
 - b 本などで大体知っている。
 - c その他()
 - (2) 低用量ピルは避妊法の一つで、エイズなどの予防はコンドームが良いといわれています。低用量ピルが解禁されるとエイズが増えるといわれていますが、どうお考えですか。
 - a 増えると思う
 - b 増えないと思う
 - c わからない
 - d その他()
7. 生殖の健康

最近、「生殖（リプロダクション）の健康（ヘルス）」という言葉が問題になっています。この中には「女性が安価で安全な避妊法を手に入れ、また安全に妊娠・出産出来、健康な子供をもち、最善の機会を与えるようなサービスを利用出来る権利がある」といわれています。このことでお気づきのことがありましたら余白の部や裏面を用いて何なりとお書き下さい。

表2 将来の出産計画について

(1)何人産みたいか	1人だけ	7人
	2人	68人
	3人	23人
	4人	1人
	5人以上	1人

(2)男の子と女の子の比率はどうか？ (複数回答あり)	男1人	71人
	男2人	11人
	男3人	0人
	女1人	72人
	女2人	13人
	女3人	1人

(3)初めての産む時期をいつごろと考えているか？	すぐに欲しい	48人
	1年ぐらい後に	32人
	2～3年後に	16人
	4年以降に	4人

表3 避妊法について

(1)経口避妊薬(ピル)の発売についての考え方	興味ない	52人
	もっと情報を...	38人
	使ってみたい	7人
	その他	3人

(2)もしピルをもらったら、どの科の医師からもらいたいか (複数回答あり)	産婦人科医	90人
	内科医	29人
	小児科医	7人
	その他	3人

(3) ピルを使いたくない人はその理由は何か	情報が不足	36人
	癌が心配	10人
	副作用が心配	51人
	その他	3人

表4 性感染症について

(1) エイズなど感染症についての考え方	もっと知りたい	55人
	大体知っている	41人
	その他	4人

(2) ピルが解禁されるとエイズが増えるといわれているが、どう思うか	増えると思う	52人
	増えないと思う	3人
	わからない	42人
	その他	3人

表5 リプロダクティブヘルスに関する意見の要約

- 遺伝について最新の情報を知りたい。今も医学の進歩を待ち続けている一人です。
- 出来るだけ人間本来の機能を優先し、絶対的な確証があり、サービス先行ではなく、先生と患者の理解的対話で納得があれば慎重に推進される事に賛同致します。
- 女性が安全であればよいと思う。
- 出産の時、陣痛剤を使用するようですが副作用や死産になる人もいて心配です。出産時の母体の状況がわからないので学校の保健体育などでも少し出して頂きたいです。(出産時間や状況を高校生くらいから)
- やはり出産に不安な事がありますので安全な妊娠・出産ができる事はとても大切な事だと思います。
- 避妊法については男女間の均等をめざし、よりよいコミュニケーションのもとで選択できるようにになればよいと思う。出産がスムーズに迎えられる。
- エイズ、性感染症の予防にはピルを禁止するよりも正しいコンドームの使い方を普及するべきと思います。
- リプロダクティブヘルスという言葉をはじめて知りました。興味を持ちましたが具体的なことがわからないので何もコメント出来ません。申し訳ありません。
- マイルドケアのできる産婦人科医師の養成を希望します。
- 子どもを産んだ後、いろいろ心配、不安な点が多く、人数を少なくと考えてしまいます。育てやすい環境、社会情勢がこれから産み育てる側としては最も望む所です。
- 女性側からの避妊についてもっとオープンになればいいと思います。情報がろくにないように思われます。公共的な機関で教育があればと思います。
- 結局女は自分で自分をまもるしかないのだから、ピルを待っている人もいると思うが、エイズを防ぐにはやっぱりコンドームも必要だと思う。
- 生殖には関係ないが、女性が安心して出産、育児ができる社会にして欲しい。
- 避妊法としてのピルについてはあまり自分自身よくわからない。日本ではピルの情報が少なく思う。体に良いのか悪いのかをもっと明確にわかればピルに関しての避妊法を考えてもいいと思う。もっとオープンに避妊についての話題ができればいいと思う。今の状況では良くわかりません。
- 関係ないかも知れませんが、避妊法で思う事は、男性が避妊についての知識不足や、また女性が子供ができると困るので避妊をもっていると女のくせにとか、遊んでいる女とかいう偏見を持つ事はおかしいと思う。
- まだ出産の予定もありませんし、何も考えておりませんので、この質問とはかけはなれてしまうかもしれませんが、今まで何となく思っていた事は、よく病院では日中に出産さ

せる為、薬を使って産ませるといふ様な事を耳にする事と、出産に関して保険がきかないという事（申請等でもどってくるらしいですけど）があるので、安心度100では望めないなど感じていました。
質問と関係ない答になってすみません。

●意に添わないかも知れませんが…

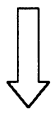
いわゆる“出来ちゃった結婚”をした彼女は会社を“首”になった。これは母親にとって相当なショックだったと思うし、精神面、体内にも悪影響では？と、思った。私の職場環境のことでしかわかりませんが、先輩が妊娠をしたときも何度となく検診のため遅刻・早退を繰り返すわけだが、“また？”という周りや上司の目が冷たかった。「安全に妊娠・出産出来る」面でもっと理解が必要だと思う。妊娠に関して、もっとオープンに情報誌などを発行して欲しい。女性誌の特集などでしかお目にかかれないのが残念。結構、一人でこそこそ見たりするものです。今は（特に中・高生から）正しい知識を身につけるのが必要と思う。また、産婦人科には（妊娠していない女性は）行きにくいと思う女性は多いと思います。女医が増えて欲しい。相談しやすいから。もっともっと子供を持ちながら働く女性が増えるような環境を作って欲しいです。

●妊娠、出産の選択は女性の正当な権利であるという考えに全く同感します。なぜなら、確かに妊娠は女性一人では出来ませんが、身ごもる事によって半年以上不自由な生活を強いられたり、活動を制限されたり数々のリスクを抱えるのは女性だからです。長い間未だに妊娠・出産に関しては当人である女性よりも、男性やその家族の意見や思惑ばかりが重視されますが、それは大いなる誤りです。まず尊重されるべきは妊娠する女性本人の意見であるということを一これは至極当然の事ですが—もっと世の中に周知徹底し、意識の改革をはかるべきです。さらに、政府がこの事を良く理解し社会制度の整備を進めなければ、今後子供を産む女性はますます減少するでしょう。また、逆に最近の風潮である安易な妊娠出産にも出生率向上などと浮かれていられない大きな問題があると思います。「出産する」と「母親になる」ことは違います。子供を産めば誰でも「母親」になれるわけではありません。幼児虐待や、放任による子供の死亡が近年相次ぐことにも見られるように、望まれずに生まれてきた来た子は決して幸福にはなれません。まして、「仕方なく」「あきらめて」生まれた子など。ちゃんとした人間一人を育て上げる責任がとれないのなら、子供を産むべきではないでしょう。望まない妊娠出産は親子共に不幸にします。このような安易な妊娠出産を防ぐ為にも低用量ピルの解禁は是非とも必要だと思います。妊娠してしまったら、出産か、中絶か—どちらも相当身体に負担のかかる選択しか出来ないのに、現状では男性の協力無しに、つまり自分一人では100%確実に妊娠を防ぐことは出来ません。これは女性の権利の甚だしい侵害ではないでしょうか。ピルはセルフディフェンスの為に必要不可欠なものです。「ピルを解禁すればコンドームの使用率が低下して性感染症が増加する」などというのはコンドームの避妊以外の目的を全く理解していない非常に無知な発言でしょう。ピルは避妊、コンドームは性感染症予防。この2つは全く別なものです。この点をもっと広く知ってもらえばピル解禁によるエイズの蔓延などという無知で誤った図式は払拭されるでしょう。そもそも世の男性の大半はコンドームの正しい利用法さえ知りません。正しい使用法や使用上の注意を製品に添付すべきでしょう。また、性感染症についても認識率は低いように思われます。病名や症状は元より罹患した際、どの科で診察を受けるか知らない人が多いのではないのでしょうか。とにかく望まない妊娠・出産・中絶による不幸を防ぎ、女性の心身と権利を守るためにも一刻も早くピルを解禁すべきです。

私自身望まない妊娠による中絶を経験し、心身の後遺症に未だに苦しんでいます。あんな地獄のようなつらい思いをする女性が一人もいなくなるように、ピルの解禁と男性の意識向上を専門的立場の方々のお力で推進していただきたいと思います。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

結婚届けを提出した夫婦に、アンケートを渡し、その回収された 100 枚分につき分析した。多くは家族計画には関心を持ち、男 1 人、女 1 人の児を希望する者が最も多かった。避妊法としての経口避妊薬(ピル)については情報量が少なく、より多くの情報を求めている。